

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

Hello!

你好!

안녕하세요!

Hola!

Magandang tanghali!



身近なところから始まる 多文化共生

最近「多文化共生」という言葉をよく耳にします。西東京市には3,000人以上の外国人が住んでいます。身近に住む外国人との理解を深め、外国人にとっても住みやすいと感じる地域にするためにはどうしたらよいでしょうか。

今回は、柳沢公民館で実施中の「子育て中の外国人女性のための日本語講座（以下日本語講座）」を訪ねて、海外から西東京市に来た二人の外国人女性と日本語講座を支えているボランティアスタッフにお話を伺いました。

言葉の壁・日本語

韓国出身の白京玉さん(41)は7年前に、長男の出産を機に韓国から夫の実家の近くである西東京市に来ました。夫婦の会話は英語で、日本語を学ぶ機会はなく、子育ては英語・韓国語・日本語が入り混じり、子どもの喋り始めが遅かったのをとても気にしていました。日本語の習いは始め、幼稚園のママ友たち



からでした。独学なので7年住んでも、日本語で喋りたいことを喋れないし、漢字の読み書きも小学3年生ぐらいのレベルかな。日本語講座には1年ちょっと通っています。

◆◆◆
中国系アメリカ人の永澤ヘレンさん(38)も9年前にニューヨークから夫の実家近くの西東京市に来ました。

最初の子を1歳で保育園へ入園させましたが、保育園と家庭を結ぶ連絡ノートがすべて日本語なのでとても大変でした。現在も小学1年生の長女が持ち帰る学校からのお知らせを読むのに苦労しています。

共感できる場・日本語講座

日本語講座は日本語を学ぶだけでなく、参加者同士が文化や習慣の違いで困っていることや子育ての悩みなどを語り合い、共感し合う場でもあります。それを支えるスタッフは日本語ボランティア養成講座修了者です。スタッフの一人は、自分が海外在住のときに日本語講座のよくな集まりに参加して受けた恩を返したいという思いでサポートしています。また、別のスタッ

わが街をもっと知りたくて

北多摩北更生保護女性会 西東京分区分

お母さんたちにエールを!

更生保護女性会は、戦後街をさまよう孤児たちを「放つはおけない」と立ち上がった女性たちによって始まりました。女性の立場から犯罪や非行のない明るい地域社会を実現しようとする全国的なボランティア団体で、北多摩北更生保護女性会は東村山・清瀬・西東京の3市で構成され、西東京分区分には125人の会員がいます。

その活動は多岐に渡り、少年院や刑務所の行事に参加したり、社会復帰支援として更生保護施設(出院、出所後の施設)に篤志家の寄付による衣類や日用品を届けるほか、社会を明るくする運動や薬物乱用防止キャンペーンにも参加しています。中でも特に力を入れているの

は、乳幼児を育てている地域のお母さんたちにエールを送る子育て支援活動です。

更生を必要とする少年とのかかわりを通して、乳幼児期の子育ての大切さを実感し、市の出前講座を利用して「おしゃべりしながらちよっぴり勉強会」という保育付きミニ集会を平成9年から継続して毎年1回公民館で開いてきました。この集会では、お母さん同士が子育ての悩みを互いに語り合ったり、助言者である市立保育園の園長、保育士、看護師、栄養士から体験に基づいた育児のヒントを聞くこともできます。



の方々のお力のおかげで続けられました。これからもお母さん同士の友達作りの場としても、このミニ集会を継続できたいと語りまします。今年も谷戸公民館で開きます。詳しくは4面をご覧ください。

担当者からの講座報告

平和を考える講座

(8月16日～9月13日 全4回 芝久保公民館にて実施)

未来を紡ぎだす学び

ガザ地区で多数の死者が出た中での講座開催。平和のために何を学ぶか?を憲法、紛争地・被災地の課題、朗読の視点で学習しました。写真家・高橋美香さんの報告は、パレスチナの市民の実状を参加者に訴え平和を考えていただく機会となりました。朗読は音楽と映像を駆使した「作品がとも生きていた」の声。講座を終え、サークル化して学びたいとの感想もいただいている。



憲法を語る。武蔵野大学副学長 中村孝文さん